

第2号議案（別冊）

平成29年度 静岡県済生会事業報告書（案）

社会福祉法人^{恩賜財団}済生会支部静岡県済生会

済 生 会 基 本 原 則

社会福祉法人^{恩賜財団}済生会は、済生勅語にみられる「施薬救療」の精神を承けて済生の実を挙げ、社会福祉の増進を図ることを目的として設立された。

以来、全国にわたり医療機関及びその他の社会福祉施設等を設置して定款に記された事業を行っている。

平成 29 年度静岡県済生会経営方針

済生会の理念と役割の実践

支部理事会を意思決定機関とし、支部長に幅広い権限が一元化された静岡県済生会の業務執行体制は4年目に入り、その機動的かつ効率的な組織運営体制のメリットを最大限生かし、変化する経済・社会状況や経営環境に的確に対応しつつ、安定した経営基盤を確立・強化するとともに、本支部の「施薬救療」の具現化と社会的使命をより一層発揮するため、「中期事業計画」の見直しを行い、その着実な推進に努める。

1 済生会ブランドの構築のために

「施薬救療」の精神を具現化した無料低額診療事業は、済生会活動の原点である。この事業の一層の推進と生活困窮者への支援事業の充実並びに医療・福祉サービスの積極的な推進を図る。全職員がこの事業への理解を深め、幅広くかつ積極的に実行することにより済生会のブランドが確立する。

2 わが国最大の医療・福祉団体としての活動と役割

生活に密着した心温まる医療・福祉サービスを提供する。

また、切れ目のない医療・福祉サービスを提供するためには、あらゆる種類の医療・福祉サービスが密接に連携する必要がある、この面でも先導的な役割を果たしていく。特に、今後の我が国の医療・福祉分野において最重要課題とされる地域包括ケアの形成に向けて、本支部の有する医療・福祉の資源を効果的に活用し、連携を図る取組みを進める。

3 行政・関係団体・地域住民等外部との連携・協力

地域における医療・福祉の需要に応えるため、行政や社会福祉協議会等の他団体との連携・協力などの仕組みを形成し、地域ネットワークのキーステーションとしての役割を担う。

4 良質な人材の確保、「済生会人」としての育成に努め、サービスの向上と組織体制の強化を図る

5 ガバナンスの確立とコンプライアンスの徹底を図るとともに、危機管理体制の万全な備えに一層努める

目 次

○ 平成 29 年度事業報告 (案)	頁
1 静岡県済生会支部事務局	1
2 静岡県済生会監査室	11
3 静岡済生会総合病院	14
4 静岡医療福祉センター児童部	18
5 静岡医療福祉センター成人部	22
6 静岡医療福祉センターライトホーム	24
7 静岡市発達障害者支援センター	26
8 伊豆医療福祉センター	29
9 静岡県川奈臨海学園	32
10 静岡市中心身障害児福祉センターいこいの家	35
11 小 鹿 苑	38
12 小鹿なでしこ苑	43
13 静岡市桜の園	45
14 静岡市中心身障害者ケアセンター	51
15 ワーク春日	55
16 静岡済生会看護専門学校	57
17 静岡済生会訪問看護ステーションおしか	59

※各記載事業の前の記号は次のとおりです。

① ・・・指定管理による事業

② ・・・自治体からの委託事業

1 静岡県済生会支部事務局（共通事業）

基本理念

済生会創立の「施薬救療」の理念の下、静岡県済生会の各施設の連携を図り、その総力を挙げて質の高い医療・福祉サービスを提供し、安心・安全な地域医療・福祉の実現に寄与する。

平成 29 年度目標及び結果

1 安心・安全な地域医療・福祉の増進

(1) 病院及び各施設と連携した生活困窮者支援事業の積極的推進

目標数：2,128 名

結果 実績 2,064 名 (1,895 名) 内訳：ホームレス 96 名 (84 名)、高齢者及び障害者 1,099 名 (1,121 名)、刑余者 3 名 (49 名)、外国人 256 名 (154 名)、母子児童 128 名 (168 名)、その他 (H28 からの新規事業含む) 482 名 (319 名) (詳細は、5 ページから 10 ページ参照)

(2) 静岡県済生会地域包括ケア推進方策の検討

目標：年度内に検討委員会提言

結果 病院と施設間の意思の疎通、共通理解を図る目的で「施設連携懇話会」(2 回)を開催し、「なでしこカード」の導入により、施設入所者等が安心して受診することができた。今後は、済生会地域包括ケア連携士(8 名)を中心に施設間の連携を密にし、静岡版地域包括ケアシステムの構築に繋げていく。

2 各施設の円滑かつ安定的な運営支援

(1) 施設整備や事業推進上の課題解決等に係る支援

・川奈臨海学園の建替計画、病院の施設整備等の推進ほか

結果 施設の経営改善、改築問題に対して側面から施設への支援を行った。

(2) 職員研修や人事評価制度等の人材育成の充実・強化

・体系的な職員研修の構築、階層毎の研修の開催

結果 直接処遇職員の階層別研修の実施・・・(1)カ(3 ページ)参照

・人事評価制度導入に向けた検討及び試行

結果 平成 30 年度に試行予定

(3) 適切な会計経理処理に対する支援の強化

・会計監査法人による訪問指導

結果 監査人による追加訪問調査等訪問指導

・会計経理担当職員研修会の開催

結果 平成 29 年 9 月 26 日実施

3 静岡県済生会事業の積極的広報による市・県民との信頼関係の構築

(1) 静岡県済生会ホームページによる情報発信の強化

結果 平成 30 年度更新予定

(2) 病院及び各施設の情報発信の促進

・目標：新聞等マスコミへの露出

結果 支部理事会において「報道で見る静岡県済生会」で報告

(1) 支部事務局運営事業

社会福祉法人^{恩賜財団}静岡県済生会の法人管理並びに運営事務について、次のとおり事業を行った。

ア 支部理事会の開催・・・7回開催（支部理事会6回）

	開 催 日	場 所
第1回	平成29年 5月 8日	グランディエール ブケトーカイ
第2回	平成29年 5月 8日	〃 〃
第3回	平成29年 9月21日	〃 〃
第4回	平成29年 9月21日	〃 〃
第5回	平成29年12月14日	〃 〃
第6回	平成30年 2月 1日	〃 〃
第7回	平成30年 3月22日	〃 〃

イ 諸会議の開催

会 議 名 称	回
・支部事務局会議	20 (22)
・支部執行会議	5 (7)

ウ 済生会本部等との連絡調整

会 議 名 称	回
・支部長会議（本部）	2 (1)
・全国済生会支部事務責任者会議（岡山県支部） 〔H25 までは、全国済生会常勤常務（業務担当）理事協議会〕	1 (1)

エ 医療施設及び社会福祉施設等の有機的な連携を図るための連絡調整

会 議 名 称	回
・静岡県済生会地域包括ケア推進検討委員会（懇話会含む）	10 (12)
・静岡県済生会福祉医療施設長懇話会	1 (1)

オ 第三者委員会の運営に係る業務・・・2回（2回）

	開 催 日	場 所
第1回	平成29年8月28日	静岡医療福祉センター
第2回	平成30年3月23日	静岡済生会総合病院

カ 職員研修事業の実施・・・2回（1回）

担当部署	開催日	内 容
総務管理課	平成 29 年 4 月 1 日	「新入オリエンテーション」 ・ 無料低額診療事業の説明 ・ コンプライアンスについて 新規採用職員 117 名出席 ・ マナーセミナー（4 月 2 日）
企画課 第 1 回	平成 29 年 6 月 23 日	「業務副主任研修」 済生会について グループワーク 10 施設 21 名
企画課 第 2 回	平成 29 年 7 月 21 日	「業務中堅研修」 済生会について グループワーク 11 施設 22 名
企画課 第 3 回	平成 29 年 9 月 29 日	「業務新人研修①」 済生会について グループワーク。 7 施設 9 名
企画課 第 4 回	平成 29 年 2 月 10 日	「業務主任研修」 済生会について グループワーク 8 施設 14 名（12 施設 26 名）
企画課 第 5 回	平成 29 年 2 月 10 日	「業務新人研修②」 コンプライアンスについて グループワーク 8 施設 19 名
財務課	平成 29 年 9 月 26 日	会計担当者研修 「法定監査に向けた内部統制について」
総務管理課	平成 30 年 3 月 15 日	「外国人介護人材の受け入れに向けた勉強会」

キ その他、法人の管理運営に係る業務

・会計事務所等による会計監査及び監事監査・・・全施設

	開催日	対象
監査法人及び会計事務所による会計監査	平成 29 年 4 月 20 日、21 日、 22 日	静岡済生会総合病院 福祉施設等
監事監査	平成 29 年 4 月 26 日	全施設

・行政機関（静岡県、静岡市）による指導監査への立会い

(2) 生活困窮者支援事業

生活困窮者総合支援事業（なでしこプラン）を病院、各施設とともに推進、展開した。（※各施設別詳細については、5 ページ～10 ページ参照）

また、就職相談会、介護フェア等においても無料低額診療事業等のパンフレット配布を行い、啓発活動を実施した。

(3) 静岡県済生会職員共済制度事業

職員及び家族の福利厚生向上を図るため、各種給付及び貸付事業を実施した。実績は、次のとおりであった。

事業名	平成 29 年度		平成 28 年度	
	人数 (名)	決算額 (円)	人数 (名)	決算額 (円)
退職共済事業給付金	31	99,047,870	24	113,374,146
医療共済給付金	5,794	33,692,702	5,543	33,043,409
職員共済制度資金貸付事業	0	0	0	0

(4) 施設整備等への支援

ア 総合病院事業施設整備支援

旧東館解体工事及び新東館と北館を繋ぐ連絡通路棟工事への支援を行った。

イ 静岡県川奈臨海学園

施設の小規模化と施設機能の地域分散化を目的とした「家庭的養護の推進計画」を策定するに当たり、県の所管課及び関係機関と老朽化した施設の建て替えも視野に入れ、今後の学園の在り方について協議を行った。

ウ 小鹿苑

稼働率の低い事業等に対して、経営改善に向けて経営検討委員会による提言を行った。

施設名	事業名	H28年度		H29年度		
		改正後	実績	改正後	実績	増減
静岡済生会総合病院	「外国人のための無料健康相談と検診会」支援事業	95	100	100	128	28
	ホームレス等受診者に対する日用品、交通費等の支給事業	30	33	30	40	7
	ハローワーク健康診断、相談事業	30	0	40	0	0
	保護観察所等刑余者健診・相談事業	60	49	60	3	△ 46
	児童・母子福祉施設等健康診断支援事業	20	51	30	27	△ 24
	社会福祉施設等健康診断支援事業	1,200	942	1,200	990	48
	支部内各施設における無料健康相談	10	0	20	0	0
	生活困窮者の無料検診、相談事業	50	84	50	95	11
	聴力障害者への支援	20	49	20	49	0
	在留外国人への支援	50	54	50	125	71
静岡医療福祉センター児童部	障害児療育講座	160	102	160	76	△ 26
伊豆医療福祉センター	障害者健康相談事業(旧:無料健康相談会)	10	25	10	18	△ 7
静岡県川奈臨海学園	りんかい保育室の緊急受け入れ事業	5	0			
	保護観察対象者等が行う社会貢献活動の受入れ(新規)			16	14	14
小鹿苑・総合病院・成人部	無料健康相談会	13	2	13	4	2 ※1
小鹿苑・総合病院・なでしこ苑	啓蒙・周知活動	310	305	310	475	170 ※2
静岡市桜の園・病院	虐待障害者への緊急受け入れ事業	2	78	2	0	△ 78
静岡市桜の園	少年院在院者奉仕活動実習受入れ事業(新規)		22	16	20	△ 2
小鹿苑	虐待障害者への緊急受け入れ事業	1	0	1	0	0
なでしこプラン対象者数合計		2,066	1,896	2,128	2,064	168

※1 延対象者数内訳 小鹿苑:2名 成人部:2名

※2 延対象者数内訳 小鹿苑:18名 小鹿なでしこ苑:159名 病院:298名

平成29年度なでしこプラン事業報告(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

支部名	静岡県済生会
-----	--------

支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
対象者延数 (合計)	96		1,099	3	256	128	482	2,064

施設名	静岡済生会総合病院
-----	-----------

事業名		「外国人のための無料健康相談と検診会」支援事業		内容	健 康 診 断 ()							
概要	市医師会、実行委員会、医療福祉関係団体等と連携し、「外国人のための無料健康相談と検診会」に看護師やMSW等を派遣。血液検査などを無料にして、生活困窮外国人を対象に健康相談および検診を行う			支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
				対象者延数					128			128
実施延日数		1	従事者延数	31	支出総額(円)		845,013		(内訳)		検診料等	
特記事項		連携している 団体・機関名		外国人のための無料健康相談と検診会実行委員会、静岡市静岡医師会、静岡県国際交流協会、静岡県立大学								
		事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)										

事業名		ホームレス等受診者に対する日用品、 交通費等の支給事業		内容	そ の 他 (そ の 他)							
概要	緊急入院したホームレス、DV被害者等の 受診者を対象に日用品の支給を行う。 また、軽症の場合等には、病院から目的 地までの交通費の支給も行う			支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
				対象者延数	1		39					40
実施延日数		40	従事者延数	40	支出総額(円)		148,592	(内訳)		日用品費、交通費等		
特記事項	連携している 団体・機関名											
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)											

事業名	ハローワーク健康診断・相談事業			内容	健康・医療相談（ ）							
概要	静岡労働局、ハローワーク等と連携し、ハローワークや施設内等にて、求職者を対象に健康相談やカウンセリングを行う。また、要請に応じて、専門職員を派遣し、ケース会議の実施や専門的助言を行う			支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
				対象者延数								
実施延日数		従事者延数		支出総額(円)		(内訳)						
特記事項	連携している 団体・機関名											
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)		今年度は、ハローワークからの依頼が無かったため、対象者なし									

事業名	保護観察所等健診・相談事業			内容	健 康 診 断 ()							
概要	保護観察所、刑務所、更生保護施設、地域生活定着支援センターと連携し、刑務所・更生保護施設又は院内にて、刑余者等を対象に健康相談及び健康診断を行う。また、要請に応じて、専門職員を派遣し、ケース会議の実施や専門的助言を行う			支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
				対象者延数				3				
実施延日数		3	従事者延数	3	支出総額(円) (内訳)							
特記事項	連携している 団体・機関名		静岡県勘善会、NPO法人ポポロ、静岡刑務所									
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)		静岡刑務所の刑務所の健康診断は今年度なし									

事業名	児童・母子福祉施設等健診・相談事業		内容	健康・医療相談（ ）							
概要	児童・母子福祉施設、静岡県こども家庭相談支援センター等と連携し、児童・母子福祉施設又は院内にて、児童・母子福祉施設の入所者を対象に健康相談及び健康診断を行う。また、要請に応じて、専門職員を派遣し、ケース会議の実施や専門的助言を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数						27		27
実施延日数	2	従事者延数	27	支出総額(円)	131,940	(内訳) 検診料等					
特記事項	連携している 団体・機関名		千代田寮、静岡県こども家庭相談センター								
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)										

事業名	社会福祉施設等健康診断支援事業			内容	健 康 診 断 ()							
概要	社会福祉施設（養護老人ホーム、軽費老人ホーム、身体障害者各施設等）と連携し、当該施設又は院内にて、当該施設の利用者を対象に健康診断にかかる費用の免除・減額を行う			支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
				対象者延数			987		3		990	
実施延日数		79	従事者延数	313	支出総額(円)		2,185,377		(内訳) 検診料等			
特記事項	連携している 団体・機関名		静岡市救護所、静岡老人ホーム、日本平学園、白寿荘、ラポールたけみ・あおい、ゆいまある等									
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)											

事業名	生活困窮者の無料健診・相談事業			内容	健康・医療相談（						
-----	-----------------	--	--	----	----------	--	--	--	--	--	--

事業名	聴力障害者への支援			内容	そ の 他（ そ の 他 ）							
概要	聴力障害者を対象に、診察、入院時に手話通訳の支援、調整を行う			支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
				対象者延数			49					49
実施延日数		49	従事者延数		2	支出総額(円)		(内訳)				
特記事項	連携している 団体・機関名		静岡市障害者支援課									
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)											

事業名	在留外国人への支援		内容	そ の 他							
概要	静岡県国際交流協会等と連携し、診察、入退院時に医療通訳の支援、調整を行う (スペイン・ポルトガル語)		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数					125			125
実施延日数		47	従事者延数		5	支出総額(円)		272,490		(内訳) 通訳人件費	
特記事項	連携している 団体・機関名		静岡県国際交流協会等								
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)										

施設名	支部、静岡済生会総合病院、静岡医療福祉センター成人部・児童部、伊豆医療福祉センター、静岡県川奈臨海学園、静岡市心身障害児福祉センターいこいの家、小鹿苑、静岡市桜の園、ワーク春日
-----	--

事業名	支部内各施設における無料健康相談会	内容	健康・医療相談 ()							
概要	福祉事務所、民生委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会等と連携し、各施設内にて、生活困窮者を含む地域住民を対象に医師等による健康相談及び健康診断を行う	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数								
実施延日数	従事者延数	支出総額(円) (内訳)								
特記事項	連携している団体・機関名									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)	「ワーク祭り」の開催が無かったため、対象者なし								

施設名	特別養護老人ホーム小鹿苑、静岡医療福祉センター成人部、静岡済生会総合病院
-----	--------------------------------------

事業名	無料健康相談会		内容	健康・医療相談（）							
概要	施設利用者・家族を対象に無料の相談会を施設行事開催時に行う。施設利用者だけでなく幅広く参加を募る		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数			2				2	4
実施延日数		1	従事者延数	3	支出総額(円)（内訳）						
特記事項	連携している 団体・機関名										
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)		内訳 小鹿苑：2名（その他） 成人部：2名（障害者・高齢者）								

施設名	特別養護老人ホーム小鹿苑、静岡済生会総合病院、特別養護老人ホーム小鹿なでしこ苑
-----	---

事業名	啓蒙・周知活動			内容	そ の 他 (研 修)							
概要	施設利用者・家族を対象になでしこプラン等の済生会の活動について講演会を施設行事開催時に行う。施設利用者だけでなく地域住民へも幅広く参加を募る			支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
				対象者延数				18				457
実施延日数		17	従事者延数	72	支出総額(円)		28,308 (内訳) 小鹿苑：5,745 (昼食提供費用) 小鹿なでしこ苑：22,563 (認知症カフェ費用)					
特記事項	連携している 団体・機関名		病院：民生委員協議会、従事者研修会、ケアマネジャー共同勉強会、障害者連絡協議会									
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)		小鹿苑：地域の町内会や民生委員及び施設来訪者へ施設見学、事業説明を開催し施設の活動について講演した 対象者延数 小鹿苑：18名 なでしこ苑：159名 病院：298名									

施設名	特別養護老人ホーム小鹿苑
-----	--------------

事業名	虐待高齢者緊急受入れ事業	内容	そ の 他 (そ の 他)							
概要	家族の介護放棄による虐待高齢者を緊急受入所により受け入れる	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数								
実施延日数	従事者延数	支出総額(円) (内訳)								
特記事項	連携している団体・機関名									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)	虐待による受入れの対象となる高齢者なし								

施設名	静岡市桜の園
-----	--------

平成28年度事業計画を見直し、追加実施した事業

事業名	少年院在院者奉仕活動実習受入れ事業		内容	そ の 他 (そ の 他)							
概要	短期間で改善・更正する可能性が高いとされた、概ね18歳未満の少年が入院する「駿府学園」と連携し、在院者に対して更正に向けた教育活動を実施する場として、桜の園生活介護事業（通所）を実習先として提供する		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数							20	20
実施延日数		12	従事者延数		12	支出総額(円) (内訳)					
特記事項	連携している 団体・機関名		駿府学園								
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)										

施設名	静岡市桜の園、静岡済生会総合病院
-----	------------------

事業名	虐待障害者への緊急受入れ事業			内 容		そ の 他					(そ の 他)	
概要	家族等による障害者への虐待の緊急保護において、緊急を要するケースを静岡済生会総合病院と連携し受け入れていく			支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
				対象者延数								
実施延日数		従事者延数		支出総額(円)		(内訳)						
特記事項	連携している 団体・機関名		静岡市									
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)		虐待緊急保護受入れの要請が無かったため、対象者なし									

施設名	伊豆医療福祉センター
-----	------------

事業名	障害者健康相談事業			内容	健康・医療相談（　　　　　　　　　）							
概要	施設公開（１年に1回）の際に、看護師・療法士・相談員等による相談会を実施する			支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
				対象者延数			4			11	3	18
実施延日数		1	従事者延数	37	支出総額(円)		95,000		(内訳)		文具代、印刷代、郵送料等	
特記事項	連携している 団体・機関名											
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)											

施設名	静岡県川奈臨海学園
-----	-----------

事業名	りんかい保育室の緊急受け入れ事業		内容	そ の 他 (そ の 他)							
概要	伊東市の委託によるの病児保育事業「りんかい保育室」事業において、緊急を要するケース（虐待など）を事業外で受け入れていく		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数								
実施延日数		従事者延数	支出総額(円) (内訳)								
特記事項	連携している 団体・機関名										
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)		平成28年度途中に事業の見直しを行い、平成29年度は未実施								

施設名	静岡県川奈臨海学園
-----	-----------

平成28年度に事業計画を見直し、平成29年度実施した事業

事業名		保護観察対象者	内容	そ の 他 (そ の 他)						
概要	静岡保護観察所、監察官との連携により、保護観察対象者等の社会貢献活動を受入れる。	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数						14		14
実施延日数		3	従事者延数	3	支出総額(円) (内訳)					
特記事項	連携している 団体・機関名	静岡保護観察所・伊東地区保護司会								
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)	年間計3回、延べ14名の保護観察対象者、保護司会等の受入れを行った								

施設名	静岡医療福祉センター児童部
-----	---------------

事業名	障害児療育講座（健康医療相談）		内容	健康・医療相談（）							
概要	施設利用者・家族を対象に無料の相談会を療育セミナー開催時に行う。施設利用者だけでなく幅広く参加を募る		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数						76		76
実施延日数		8	従事者延数		29	支出総額(円)（内訳）					
特記事項	連携している 団体・機関名										
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)										

2 静岡県済生会監査室

組織全般においてコンプライアンスの徹底と説明責任の履行が強く求められる中で、社会福祉法人に対しても内部統制システムの整備と適切な運用が強く要請されており、これまで以上に業務チェック機能を果たす内部監査の重要性が高まっている。

平成 24 年度に発足した内部監査を所管する監査室は、引き続き関係法令、通知等に基づき施設の事務処理及び運営等が適正に行われているかどうかを明らかにし、必要な指導等を行うために下記の監査を実施した。

(1) 社会福祉法人^{恩賜財団}済生会支部静岡県済生会監査規程に則って次の監査を実施した。

①定期監査

時期及び内容を定めて計画的に実施。

②決算監査

毎会計年度終了後、決算役員会前に実施。

・ 定期監査 ・

施 設 名	監 査 日
静岡県川奈臨海学園	平成 29 年 7 月 20 日
なでしこ保育園	平成 30 年 1 月 22 日
静岡市桜の園	平成 30 年 1 月 24 日
小鹿苑	平成 30 年 1 月 26 日
静岡医療福祉センター児童部	平成 30 年 1 月 30 日
静岡医療福祉センター成人部	平成 30 年 1 月 30 日
小鹿なでしこ苑	平成 30 年 1 月 31 日
伊豆医療福祉センター	平成 30 年 2 月 23 日
静岡済生会看護専門学校	平成 30 年 3 月 13 日
静岡市心身障害児福祉センターいこいの家	平成 30 年 3 月 19 日
静岡済生会訪問看護ステーションおしか	平成 30 年 3 月 20 日

・ 決算監査 ・

施 設 名	監 査 日
監査法人および会計事務所による会計監査	平成 29 年 4 月 20 日、 21 日、22 日
監事監査	平成 29 年 4 月 26 日

(2) 行政機関等による指導監査及び実地指導等への立会いを行った。

・静岡県・静岡市による指導監査

施 設 名	監 査 日	実施機関
静岡県川奈臨海学園	平成 29 年 7 月 25 日	静岡県
なでしこ保育園	平成 30 年 2 月 5 日	静岡市
静岡市桜の園	平成 30 年 2 月 6 日	静岡市
小鹿苑	平成 30 年 2 月 7 日	静岡市
小鹿なでしこ苑	平成 30 年 2 月 8 日	静岡市
静岡医療福祉センター児童部	平成 30 年 2 月 14 日	静岡市
静岡医療福祉センター成人部	平成 30 年 2 月 14 日	静岡市

・静岡県・静岡市による実地指導

施 設 名	監 査 日	実施機関
伊豆医療福祉センター	平成 29 年 7 月 20 日	静岡県
小鹿苑	平成 29 年 10 月 24 日	静岡市

・静岡市保健所立ち入り検査

施 設 名	監 査 日	実施機関
静岡済生会総合病院	平成 29 年 10 月 6 日	静岡市保健所

・会計検査院実地検査

施 設 名	監 査 日	実施機関
静岡済生会総合病院	平成 29 年 11 月 7 日	会計検査院

・東海北陸厚生局及び静岡県の適時調査及び個別指導

施 設 名	監 査 日
伊豆医療福祉センター	平成 29 年 9 月 1 日

(3) 支部監事による施設実地監査への立会を行った。

施 設 名	監 査 日
ワーク春日	平成 29 年 8 月 8 日
なでしこ保育園	平成 29 年 8 月 8 日

(4) 法人本部業務監査への立会いを行った。

施 設 名	監 査 日	実施機関
静岡済生会総合病院（無低事業）	平成 29 年 6 月 29 日	法人本部監査 指導室
静岡県川奈臨海学園	平成 29 年 10 月 11 日	〃
伊豆医療福祉センター	平成 29 年 10 月 11 日	〃
小鹿苑	平成 29 年 10 月 12 日	〃
小鹿なでしこ苑	平成 29 年 10 月 12 日	〃
静岡医療福祉センター児童部	平成 29 年 10 月 13 日	〃
静岡医療福祉センター成人部	平成 29 年 10 月 13 日	〃
静岡済生会訪問看護ステーション	平成 29 年 10 月 13 日	〃
ワーク春日	平成 29 年 10 月 13 日	〃
静岡済生会看護専門学校	平成 29 年 10 月 19 日	〃
静岡済生会総合病院	平成 29 年 10 月 19 日	〃
静岡済生会県支部事務局	平成 29 年 10 月 20 日	〃

3 静岡済生会総合病院（病院等事業）

基本理念

私達は暖かい思いやりの心で質の良い医療・福祉サービスを実践します。

平成 29 年度目標及び結果

目標 1 安心・安全・高機能な急性期医療の提供

- ・業務の標準化と整理整頓等を進め、顧客サービスの向上に努める。
- ・入院患者を中心とした機能の集約を目指す。

結果

院内環境デザイン(標示・ポスター・その他レイアウト)の充実
紹介率、逆紹介率、手術数、新入院数の増加

目標 2 患者さん・連携医へのサービス向上

- ・プライバシーの配慮、待ち時間の短縮、接遇の質の向上を図る。
- ・地域の医療機関との連携を強化した紹介、逆紹介の推進
- ・無料低額診療の推進
- ・広報活動の充実、強化に努める。

結果

駐車場の待ち時間短縮に努めた。
地域医師会と協議会を開き、地域連携の推進を図った。
職員アンケートを実施して無料低額診療への関心を深めた。
済生会フェア、市民公開講座、落語会等広報活動を充実させた。

目標 3 優秀な人材の確保

- ・必要な人材の確保と定着を目指し、職員教育の更なる充実を図る。

結果

後期研修医 3 名確保(外科系 1 名・内科系 2 名)

目標 4 働きやすい環境

- ・専門性を生かした業務を行える体制を整備。
- ・ワークライフバランスの充実に取り組み、働きやすい環境づくりを行う。
- ・メンタルヘルスの向上に努める。

結果

職員旅行への参加人数増
ハラスメント対応の強化

目標 5 安定した経営

- ・安定した財源による建築計画の遂行のため、新入院数及び入院単価の向上に努める。

結果

新入院数及び入院単価の増加

静岡県中部地域の中核病院（昭和 23 年 6 月 1 日開設）として、入院診療を中心とする診療の充実に努めるとともに、救命救急センター、周産期センター、地域災害医療センター、健康管理センターのほか、地域福祉サービス事業等の運営、活動を積極的に進め、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進を図った。

地域連携を一層推進するほか、医療の質及びサービスの向上を図り急性期病院として地域に更に貢献できる医療の提供を目指した。

なお、病院経営については、新入院数及び入院単価の向上、医療従事者の確保、支出削減に努め、安定した財源確保を図るとともに、職員の患者、連携医へのサービス向上等への意識付け並びに業務構造改革を推し進めた。

（１）病院運営事業

病床の適正配置と効率運用により、各診療科の安定した診療体制を確保した。

救命救急、周産期、脳卒中、循環器等地域のニーズに対応するとともに、7 対 1 看護基準の維持により、安心・安全な看護体制の構築を図った。

区 分	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
許可病床数	521 床	521 床	521 床
一日平均入院患者数	460 名	454 名	439 名
一日平均外来患者数	994 名	1,003 名	974 名

（２）救命救急センター・地域災害医療センター事業等

専門医を配置し、救急医療体制の充実強化を図った。また、災害派遣医療チーム (DMAT) の研修に積極的に参加し、大規模災害発生時の医療チーム緊急派遣に機動的に応じられるよう努めた。

区 分	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
救急患者数	17,000 名	19,218 名	17,824 名
うち入院患者数	4,200 名	4,391 名	4,333 名

（３）臨床研修事業

臨床研修病院として、研修医を受け入れ、各科指導医による臨床実務を通じて基本的知識、技術の習得などの臨床研修を行い医師としての資質向上に努めた。

区 分	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
受入研修医数	22 名	21 名	22 名

(4) 医師・看護師確保対策事業（院内保育所）

医師・看護師の離職防止と潜在医師・看護師の再就職を促進するために、平成 27 年度に開園したなでしこ保育園の充実運営に努めた。

区 分	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
事業所内保育事業（共同枠）	90 名	85 名	66 名
〃 （地域枠）	20 名	12 名	15 名
病児保育事業	延べ 100 名	延べ 64 名	延べ 130 名
放課後児童健全育成事業	15 名	4 名	4 名

(5) 地域福祉サービス事業

社会福祉法人が運営する総合病院として、各医療福祉相談活動を通じ、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進など社会福祉の向上に努めた。

区 分	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
医療相談	11,000 件	8,046 件	10,330 件
心理相談	5,200 件	5,777 件	5,190 件

(6) 無料低額診療事業

生計困難者を対象に、無料または低額な料金での診療、無料の健康相談、保健教育等を行った。診療活動においては、生活保護患者以外の生計困難者について関係機関と連携の上、対象者への支援に努めた。

区 分	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
実施率	10.0%	8.0%	8.1%
対象者延べ数	40,000 名	32,762 名	32,057 名

(7) 生活困窮者支援事業

無料低額診療対象者のみならず、生活困窮者全般を対象に、無料健康相談や無料または低額な料金での検診等を行った。無料低額診療事業とあわせて、支部内の他施設も含め、地域の関係機関・団体や当事者とともに啓発活動、教育活動の他、地域での福祉的課題について積極的に取組を行った。

主な対象者：

刑余者（刑務所などを出所した者）、DV 被害者、ホームレス、単身高齢者、就労困難者への支援など

区 分	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
対象者延べ数	1,925 名	1,755 名	1,552 名

(8) 健康管理センター事業

地域住民及び福祉施設入所者、一般事業所従業者の疾病予防、健康の保持増進に
 応えるため、人間ドック・各種健康診断を積極的に実施した。

区 分	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
人間ドック	1,675 名	1,908 名	1,563 名
生活習慣病予防健診等	11,000 名	11,264 名	10,531 名

(9) 岡本一男記念基金事業

静岡県済生会に勤務する職員が行う医学的研究・研修に対し助成するとともに、
 優れた業績の顕彰を行い、福祉・医療の向上を図る事業である。

(医学の研究・研修・福祉医療活動 等)

区 分	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
助成件数	事業計画に記載なし	0 件	0 件

(10) 地域開放事業

将来の生き方や職業の選択について考えている、主に静岡県内の高校生を対象
 として、保健・医療・福祉への理解を深めるため、ナース体験等の研修を開催し
 た。小学生ナーススクールは、職員の家族を対象とした「こども参観会」へ変更
 した。開院 70 周年イベントとして健康講座&トークショーを開催、主に入院患者
 を対象とした夕涼み落語会も単発で開催した。

区 分	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
市民公開講座	3 回	4 回	2 回
職場体験(中学生参加人数)	50 名	50 名	70 名
小学生ナーススクール			21 名
高校生ナーススクール	80 名	80 名	99 名
健康講座&トークショー		1 回	
落語会		1 回	

4 静岡医療福祉センター児童部（病院等事業）

基本理念

私たちはノーマライゼーション実現のため、あたたかな心をもって皆さんを応援いたします。

平成 29 年度目標及び結果

目標 1 療育の充実

放課後及び夕食後の余暇支援の充実を図る

結果・シフトの見直しにより係る職員を増加した

目標 2 安全な医療・生活の場の提供

(1) 院内感染対策・医療安全対策をより強化する

結果・マニュアルの充実を図った

(2) 事故・事件防止に関する手順を徹底する

結果・インシデント報告の活用

目標 3 人材育成

(1) 職員教育体制を構築し、資質向上に努めていく

結果・研修活用コーディネーターの配置

(2) 業務を標準化し、支援技術を向上させる

結果・各職場での業務手順書等の見直し

目標 4 経営の安定化

(1) 医師・看護師の確保に努める

結果・医師 1 名、看護師 2 名採用

(2) 入院（入所）児童の確保に努める

結果・一日平均入院（入所）児（者）数 45 名

(3) 療養介護事業（二種事業）を開始する

結果・入院（入所）実績 0 名

目標 5 労働環境の向上

仕事と生活の調和の実現に取り組む

結果・年次有給休暇の取得促進

目標 6 防災・防犯の強化

(1) 実効性のある避難訓練を実施する

結果・ライフタワーを使用した訓練の実施

(2) BCP（事業継続計画）策定に向けての職員研修を実施する

結果・H29. 6、H29. 12 実施

(3) 防犯体制の見直しを行う

結果・日本防災通信協会等による研修の実施

(1) 医療型障害児入所施設事業（一種事業）（定員 60 名）

障害福祉サービス事業（療養介護）（二種事業）（定員 60 名）

入所児及び通院児に対し、リハビリテーションを中心にした専門的医療・教育・施設内保育・生活指導等の「総合療育」を実施した。従来の肢体不自由児療育に加え、発達障害児の診療を行うなど、利用者からの幅広いニーズに応えた。入所児童数は、保育・教育機関の環境の充実、交通網の発達による在宅志向の高まりなどから減少傾向にある。外来患者数は前年より減少となった。

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
【入院（入所）】			
一日平均入院(入所)児(者)数	45 名	41.5 名	45.0 名
年間入所児童数		60 名	52 名
年間退所児童数		61 名	53 名
年間延入院(入所)児(者)数		15,144 名	16,443 名
【外来】			
一日平均外来患者数	190 名	189.5 名	192.4 名
年間延外来患者数		46,045 名	46,570 名
年間診療日数		243 日	242 日

疾病別人員（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

疾病別	年間実人員	構成比
脳性麻痺	83 名	83.0%
進行性筋・神経疾患	6 名	6.0%
二分脊椎	6 名	6.0%
その他	5 名	5.0%
計	100 名	100%

月別入所者数

	初日在籍者数	延べ人数
29 年 4 月	40 名	1,158 名
5 月	42 名	1,265 名
6 月	42 名	1,251 名
7 月	37 名	1,242 名
8 月	43 名	1,366 名
9 月	38 名	1,215 名
10 月	39 名	1,336 名
11 月	40 名	1,219 名
12 月	42 名	1,308 名

30 年	1 月	39 名	1, 293 名
	2 月	42 名	1, 172 名
	3 月	40 名	1, 319 名
合 計		484 名	15, 144 名
月平均		40. 3 名	1, 262 名
一日平均			41. 5 名

⑤ (2) 障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）

障害者総合支援法による指定障害福祉サービス事業所として、市町から障害福祉サービス受給者証の交付を受けた利用者と契約し、家庭において、冠婚葬祭、疾病、事故などの理由や、養育者のレスパイトとしての休養や旅行等の理由による短期入所を受けることにより、本人及びその家族の福祉の向上を支援した。

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
年間利用延人数	140 名	107 名	89 名
一日平均利用人数	0. 4 名	0. 29 名	0. 24 名

⑤ (3) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業（二種事業）

⑤ ア 静岡市障害者等相談支援事業

静岡市における相談支援事業指定施設として、在宅福祉を担当する職員を配置し、在宅の障害児（者）及び保護者に対して地域生活での具体的な相談、指導、サービスの調整を実施すると共に地域生活に根ざしたボランティアの育成を図った。

⑤ イ 障害者等相談支援事業（虐待相談等含む）

相談支援事業として総合的な在宅サービスの調整、援助等

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
地域生活の支援・助言	2, 900 件	3, 326 件	3, 479 件

⑤ ウ 障害児等療育支援事業

(7) 在宅支援訪問療育等指導事業

- ・派遣職員 医師、PT、OT、ST、心理士等
- ・活動先 障害児保育実施園、重度障害児（者）訓練ホームの巡回、在宅訪問

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
相談等延件数	73 件	95 件	86 件

(イ) 在宅支援外来療育等指導事業

- ・個別相談、療育音楽、グループ保育活動

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
相談指導延件数	280 件	299 件	370 件

(ウ) 施設支援一般指導事業

- ・障害児保育研修、発達フォローアップ教室、自主研修会等の指導等

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
支援回数	12 件	12 件	14 件

エ 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業

- ・利用者の相談支援及びサービス利用計画書の作成等

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
利用計画書作成件数	145 件	135 件	132 件

㊦ (4) 日中一時支援事業（公益事業）

在宅福祉を担当する相談支援員を中心に、医療施設機能を提供しながら在宅の障害児（者）の相談支援や施設短期入所の受け入れなど、地域に住む家族の生活への具体的な支援事業を実施した。

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
年間利用延人数	40 件	24 件	18 件
一日平均利用人数	0.1 名	0.06 名	0.05 名

(5) その他の事業

研修室・会議室等運営事業

医療・社会福祉事業に携わる者の研修等の便宜に供するため、会議室等の管理運営事業を行った。

ア 会議室、ミーティング室利用状況

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
会議等利用人数	6,000 名	5,870 名	6,523 名

イ 宿泊施設利用状況

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
宿泊施設利用人数	30 名	20 名	25 名

※（ ）内は平成 28 年度実績

5 静岡医療福祉センター成人部（社会福祉事業）

基本理念

- ・健康で豊かに安心して生活できるよう支援します。

平成 29 年度目標及び結果

目標 地域に出る機会を増やし、より豊かな生活を目指す。

- ・個々のニーズに合わせた外出支援を増やす。施設内活動だけではなく、地域社会に出ることにより、より豊かな生活を目指す。 年間 延べ 1,000 人

結果 個別の外出支援は年間延べ 774 人と目標値まで及ばなかった。担当職員と個別の買い物等で、適時行われた為、とっても好評であった。そして職員との関わりも深まった。他に行事として水族館、SL、野球観戦等年間 22 回と多彩に設定したため、個々のニーズに合わせた外出が増え、利用者の満足度が上がった。

（１）障害者支援施設（一種事業）（施設入所支援 60 名、生活介護 60 名）

障害者総合支援法による障害者支援施設として、日中は「生活介護」、夜間は「施設入所支援」の 2 事業を行った。

- ・定 員 施設入所支援 60 名（60 名）
- ・年間入所者数 4 名（1 名）
- ・年間退所者数 7 名（1 名）
- ・年間延在所者数 19,472 名（20,052 名）
- ・一日平均在所者数 53.3 名（54.9 名）

疾病別人員（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

病 名	年間実人員（名）	百分比（％）
脳 卒 中	32	52.5
その他の脳原性疾患	12	19.7
脳 外 傷	1	1.6
そ の 他	16	26.2
計	61	100.0

月別生活介護・入所者数

		生活介護						施設入所	
		入所		通所		合計			
月	入所 人数	利用 人数	延べ利用数	利用 人数	延べ利用数	利用 人数	延べ利用数	利用 人数	延べ利用数
4	58	56	1,106	6	49	62	1,155	71	1,655
5	57	56	1,242	6	50	62	1,292	69	1,673
6	56	54	1,186	6	49	60	1,235	66	1,618
7	54	54	1,113	6	47	60	1,160	66	1,641
8	55	54	1,219	6	45	60	1,264	65	1,641
9	55	55	1,155	6	47	61	1,202	66	1,649
10	55	54	1,160	6	52	60	1,212	65	1,634
11	54	53	1,149	5	53	58	1,202	62	1,567
12	54	53	1,095	5	48	58	1,143	62	1,614
1	54	53	1,204	5	43	58	1,247	61	1,628
2	54	54	1,067	6	53	60	1,120	63	1,495
3	54	54	1,174	6	45	60	1,219	63	1,657
計			13,870				14,451		19,472

- ・ 定 員 生活介護 60 名
- ・ 開所日数 260 日 (261 日)
- ・ 年間延利用者数 14,451 名 (15,070)
- ・ 一日平均在所者数 55.5 名 (57.7)

(2) 福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）（空床）

指定障害福祉サービス事業所として短期入所事業を空きベッドを利用して実施した。

	平成 29 年度目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
年間利用延人数	200 名	299 名	284 名
一日平均利用人数	0.6 名	0.8 名	0.8 名

6 静岡医療福祉センターライトホーム（二種事業）

基本理念

三療免許者に対し、必要な技術及び生活指導を行い、利用者の自立更生をはかる。

平成 29 年度目標及び結果

目標 1 利用者（施術者）の確保

(1) 視覚特別支援学校からの施設見学・施術体験の受入

結果・施術技術の研修会の実施

(2) 視覚特別支援学校への実技指導

結果・静岡、沼津視覚特別支援学校での実技講習会の実施

目標 2 経営の安定化

利用客の確保 目標 3,000 人

結果・2,115 人

目標 3 マッサージの無料奉仕の実施

結果 平成 29 年 9 月 24 日実施

目標 4 施設の広報活動

(1) 済生会病院ホスピタルフェアへの参加（無料体験マッサージの実施）

結果・マッサージ無料体験の実施 利用者約 100 名

(2) 近隣町内会への広報活動の実施

結果・マッサージの無料奉仕の実施 利用者 22 名

・ライトホームのパンフレットの配布

（１）利用者指導事業（定員 20 名）

利用者の技術（鍼・灸・マッサージ）及び生活訓練動作の指導を行い、自立生活ができるよう養成に努めた。

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
年間新通所者数		4 名	1 名
年間退所者数		3 名	2 名
年間延通所者数		788 名	775 名
一日平均通所者数	10 名	3.2 名	3.2 名

疾病別人員（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

疾病分類	通所実人員	構成比
先天性視覚障害者	1 名	14.3%
中途視覚障害者	6 名	85.7%
計	7 名	100%

月別在所者数

年月	通所者延人数
29 年 4 月	67 名
5 月	60 名
6 月	77 名
7 月	74 名
8 月	87 名
9 月	72 名
10 月	65 名
11 月	57 名
12 月	56 名
1 月	53 名
30 年 2 月	59 名
3 月	61 名
合計	788 名
月平均	65.7 名
一日平均	3.2 名

(年間通所日数 243 日)

(2) その他

＊第 65 回全国盲人福祉施設大会への参加（指導員）

＊静岡市主催の「心のバリアフリーイベント」への参加

- ・体験ブース・就労訓練活動体験として、無料マッサージの実施
- ・ライトホームのパンフレット等の配布

参加者：ライトホーム指導員 1 名、研修生 3 名、ボランティア 2 名

利用者数：96 名

7 静岡市発達障害者支援センター（公益事業）

基本理念

直接支援である相談、発達、就労支援及び情報提供や啓発研修のより一層の充実を図り、医療、保健、福祉、教育、雇用、親の会など関係機関や団体との連携により専門性を持った支援職員人材育成、ペアレントメンター、地域サポーター養成研修等の支援を行っていく。

平成 29 年度目標及び結果

目標 1 静岡市健康づくり推進課・保健福祉センターとの連携（すくすくファイルの研修会 静岡版早期発達支援プログラムの普及、健診医師・保健師・心理士のための専門研修会、ペアレントメンター派遣）

結果

- ・市内 5 ヶ所の保健福祉センターで実施されている遊びの教室にて、参加保護者へすくすくファイルの配布と活用のご案内及び情報提供を行った。
- ・静岡市内の健診医師・保健師・心理士を含めた小児科医及び医療従事者等を対象としてかかりつけ医等発達障害対応力向上研修会を 2 回実施した

目標 2 保育士、保育教諭、教職員、特別支援教育支援員研修会、保育園幼稚園学校単位の内部研修会及び相談会の実施

結果

- ・市内保育園、幼稚園、こども園、小中学校からの依頼を受け、40 回の講師派遣を行い研修会を実施した。
- ・各研修会の中で、事例検討会を組み合わせることで相談会に準じた形で、支援方法の検討を行った。

目標 3 ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の充実（静岡市特別支援連携協議会、静岡市子ども若者支援地域協議会に 29 年度も継続して参加）

結果

- ・静岡市特別支援連携協議会、静岡市子ども若者支援地域協議会に今年度も参加をした。

発達障害者支援法に基づく発達障害者に対する相談支援、発達支援、就労支援、関係機関に対する普及啓発及び研修等を行い、また、静岡市在住の自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害がある本人、家族、関係者及び関係機関からの相談支援を行った。

⑤（１）発達障害者支援センター事業

ア 発達障害児者及び家族に対する相談支援

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
年間延相談件数	980 件	730 件	866 件
年間実相談人数		661 件	767 件

イ 発達障害児者及び家族に対する発達支援

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
年間延相談件数	1,500 件	2,740 件	2,564 件
年間実相談人数		946 件	973 件

ウ 発達障害児者に対する就労支援

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
年間延相談件数	200 件	305 件	349 件
年間実相談人数		115 件	127 件

エ 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修

(ア) センター主(共)催で企画した研修

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
年間開催回数	70 回	151 回	123 回
年間延参加人数	4,000 名	3,641 名	2,652 名

(イ) 外部から講師依頼による職員派遣

	平成 29 年度計画・目標		平成 28 年度実績
年間派遣回数		40 回	32 回
年間延参加人数		1,066 名	1,089 名

(ウ) 連絡協議会・調整会議の開催回数

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
年間実施回数		61 回	66 回

(エ) 機関コンサルテーション支援

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
年間実施回数		124 回	122 回

(オ) 個別支援のための調整会議の開催回数

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
年間実施回数		394 回	370 回

② (2) 家族支援・支援体制サポート強化事業

ア 支援体制サポート強化事業による巡回

(7) 保育園、幼稚園への訪問支援

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
年間訪問箇所数		20 カ所	25 カ所
年間延参加職員数		698 名	776 名

(イ) 小中学校、放課後等デイサービスへの訪問支援

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
年間訪問箇所数		11 カ所	8 カ所
年間延参加職員数		216 名	183 名

イ ペアレントメンター・地域サポーター家族支援

(7) 養成研修

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
年間実施回数	6 回	6 回	6 回
年間延参加人数	300 名	365 名	421 名

(イ) 活用による支援

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
年間実施回数		210 回	154 回

8 伊豆医療福祉センター（病院等事業）

基本理念

私たちは、障がいを持つ方々の生活の充実・満足を目指して、チームを組んで医療と療育の総合的支援に取り組みます。

平成 29 年度目標及び結果

目標

1 地域ニーズの的確な把握と、適切な病床利用

目標：入所者数 35 名

2 入所利用者の満足度の向上

目標：病棟での様々な行事の充実

3 在宅重症心身障害児者の福祉向上

目標：利用者数 生活介護 6 名/日 児童発達支援 8 名/日 短期入所等 8 名/日

4 機能充実に伴う人材の確保・職員の質の向上

結果

- ・平成 29 年度は、3 名の退所と 3 名の入所があり、平成 29 年度末の入所児（者）数は児童が 11 名、成人が 23 名の計 34 名となった。
- ・外来患者はいわゆる発達障害の児童を中心に増加しており、新患の予約が 3 か月先でないといれられないような状況となっている。
- ・在宅支援福祉関連サービスでは、生活介護利用者が前年の 5.1 名/日から 5.8 名/日に増加したが、児童発達支援利用者は、障害の重度化に伴う病欠等が増加したため、6.3 名/日から 5.3 名/日に減少した。それぞれの事業ごとに多少の入り繰りはあるが、総じて当センターの業務における在宅支援福祉サービスの比重は増加している。
- ・ひとつひとつの医療・介護行為は、安全を心がけ、丁寧に実施した。安全対策委員会・感染防止委員会等を開催し、防ぐことのできる事故を起こさないよう努めた。
- ・重度・重症児（者）医療・療育講習会他へ職員を参加させ、職員の医療・療育技術の向上を図った。

（1）医療型障害児入所施設（一種事業）・障害福祉サービス事業（療養介護）（二種事業） （定員計 43 名）

当センターは、社会福祉施設であるとともに、医療法に基づく病院でもあることから、外来診療として脳神経外科、発達行動小児科、小児神経科、整形外科、リハビリテーション科、障害児（者）歯科の専門診療を行っており、社会福祉施設としての機能と併せ、静岡県東部の障害児（者）の総合的な療育支援を担っている。

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
1 日平均在所児（者）数	35 名	33.1 名	33.1 名
1 日平均外来患者数	85 名	91.2 名	88.2 名

（ 入 所 ）

（ 外 来 ）

- ・ 定 員 43 名 （ 43 名 ）
- ・ 年間延べ患者数 26,075 名 （25,302 名）
- ・ 在所児（者）数 34 名 （ 34 名 ）
- ・ 年間診療日数 286 日 （ 287 日 ）
- ・ 年間延べ在所児童（者）数 12,098 名 （12,067 名）
- ・ 一日平均患者数 91.2 名 （ 88.2 名 ）
- ・ 一日平均在所児童（者）数 33.1 名 （ 33.1 名 ）

（２）障害児通所支援事業（児童発達支援）（二種事業）

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
1 日平均利用者数	8 名	5.3 名	6.3 名

- ・ 定 員 7 名 （ 7 名 ）
- ・ 登録児童数 13.5 名 （ 14.3 名 ）
- ・ 年間延通所児数 1,181 名 （1,403 名）
- ・ 一日平均通所児数 5.3 名 （ 6.3 名 ）
- ・ 年間通園日数 223 日 （ 222 日 ）

（３）障害福祉サービス事業（生活介護）（二種事業）

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
1 日平均利用者数	6 名	5.8 名	5.1 名

- ・ 定 員 5 名 （ 5 名 ）
- ・ 登録者数 18.0 名 （ 14.0 名 ）
- ・ 延べ通所者数 1,397 名 （1,222 名）
- ・ 一日平均通所者数 5.8 名 （ 5.1 名 ）
- ・ 年間通園日数 240 日 （ 239 日 ）

㊥（４）障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）

㊥（５）日中一時支援事業（地域生活支援）（公益事業）

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
1 日平均利用児（者）数	8 名	5.4 名	5.4 名

- ・ 年間延べ利用者数 1,574 名 （1,955 名）
- ・ 一日平均利用児（者）数 4.3 名 （ 5.4 名 ）
- ・ 年間実施日数 365 日 （ 366 日 ）

短期入所・日中一時支援の合計

⑥ (6) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業・(二種事業)

ア 特定相談支援事業・障害児相談支援事業

相談支援専門員 1 名を配置し、障害児（者）が福祉サービスを利用する際に義務付けられている利用計画作成のための相談に対応した。

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
計画相談等（モニタリング含む）	200 回	249 回	135 回

イ 静岡県障害児（者）地域療育支援センター事業

登録された障害児（者）を対象とした在宅訪問・外来・施設支援等に対し、当センターの職員である医師・PT・OT・ST・心理士・管理栄養士・看護師・保育士等を派遣し、在宅障害児（者）の療育指導を実施した。

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
在宅支援訪問療育等指導事業	150 回	111 回	122 回
在宅支援外来療育等指導事業	250 回	277 回	213 回
施設支援一般指導事業	50 回	30 回	28 回

ウ 静岡県発達障害者支援センター機能強化事業

自閉症、アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害、学習障害等があるいわゆる発達障害児（者）に対し、それぞれのライフステージに応じた生活を支援するため、地域での医療や福祉サービス等の情報提供を行うとともに、学校・保護者を含む関係機関との調整会議に参加した。

県発達障害者支援センターが主催する研修会へ参加した。

賀茂地区の発達障害に関する巡回相談を 26 回実施した。

エ 一般相談支援等

身近な地域での各種福祉サービスの利用などに関する、電話等を含めた様々な相談に応じるとともに、障害児（者）が充実して暮らせる地域づくりを目指し、行政機関や、自立支援協議会との連携を図った。

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
一般相談等	500 回	420 回	400 回
自立支援協議会等参加		74 回	81 回

9 静岡県川奈臨海学園（社会福祉事業）

基本理念

子どもの最善の利益のため、子どもたち一人ひとりが、尊重され、心身とも健やかに育成され、将来健全な社会の一員として、自立できるように支援を行う。

平成 29 年度目標及び結果

<児童養護施設>

目標 1 家庭的養護推進計画に合わせた施設整備への取り組み

- (1) 施設の老朽化に伴い、早急に改築計画が進むよう関係機関との調整を図る。
- (2) 具体的な計画提示と家庭的養護のための運営方針をまとめる。

結果 支部とともに施設整備についての計画案を静岡県へ示し、川奈臨海学園の施設整備を県としても進めていく合意形成が図られた旨の連絡をもらった。課題の整理、今後の予定について継続して確認をしている。

目標 2 基本理念に基づき、児童の生活支援及びの自立に向けた取り組み

- (1) 自立支援計画票に基づき、児童一人ひとりに生活支援を行う。
- (2) 高校卒業学年児童の自立に向けて支援する。
- (3) 家庭復帰へ向けて、家族との連携及び協働について、家族再統合のできる家庭の調整を行う。

結果 年間退所者 13 名中、家庭復帰 4 名、自立 2 名、他施設措置変更 6 名、里親措置変更 1 名であった。児童相談所との連携のもと、アフターケアも継続している。

目標 3 里親支援への取り組み

- (1) 里親の研修、実習を積極的に受け入れる。
- (2) 里親の開拓や資質向上のサポートを行う。

結果 里親事業推進と里親開拓をし、里親認定前研修養育実習のため 4 名を積極的に受け入れた。児童についても里親宅へ 1 名措置変更した。

<病児保育>

目標 4 病児保育事業の充実を図る

- (1) 伊東市からの委託を受け、指定医療機関との連携により、病児病後児に対して、疾病からの回復を支援する。
- (2) 関係機関との連携を図り、より多くの市民へ周知する。

結果 年間の利用数 353 名であった。区分違いの病児の受け入れ、SNS の利用により情報発信の場を広げた。

（１）児童養護施設（一種事業）

ア 児童養護施設運営事業

平成 28 年度から定員を 70 名とし、虐待を受けた児童が増加する中、3 才児か

ら高校生まで、関係機関との連携を図りながら、支援を行った。高校卒業児童 3 名中、2 名大学進学（うち 1 名は措置継続）、1 名就職した。一日平均 54.3 名の子どもたちに対し、職員全体が関わりながら、より良い支援を行うよう努めた。

イ 小規模グループケア

小規模グループケア棟で定員 6 名、専任職員と本体施設職員がシフトを組み、児童との関係を密接にし、ケアの内容を深めた。

- ・定員 70 名 (70 名)
- ・年間入所児童数 5 名 (14 名)
- ・年間退所児童数 13 名 (17 名)
- ・年間延在所児童数 19,844 名 (22,423 名)

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
一日平均在所児童数	58 名	54.3 名	61.4 名
小規模グループケア	6 名	5.5 名	5.4 名

入所理由別人員（主訴）（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

入園理由	年間取扱実人員（名）	構成比（％）
疾患	0	0
養護	15	25.9
虐待	43	74.1
計	58	100

月別在所児童数

年 月	初日在籍者数（名）	延べ人数（名）
29 年 4 月	53	1,590
5 月	53	1,643
6 月	55	1,650
7 月	55	1,705
8 月	55	1,705
9 月	55	1,603
10 月	54	1,674
11 月	55	1,650
12 月	56	1,736
30 年 1 月	56	1,731
2 月	55	1,540
3 月	55	1,617
計	657	19,844
月 平 均	54.7	1653.6
一日平均		54.3

ウ その他 乳幼児受け入れ

1歳と2歳の未就園児の受け入れはなかった。3歳以上の幼児は伊東市立吉田幼稚園や近隣地域と連携を取り、理解と協力を得ながら受け入れを行った。

(月平均 7.9 名)

⑤ (2) 病児保育事業 (二種事業)

伊東市との病児保育事業業務委託を受け、基本理念を「子どもたちの健全な成長と発達を保障しつつ、疾病からの回復を援助する」とし、指定医療機関と連携して病児の看護保育を行い、伊東市内の子育て世帯の支援を行った。

平成29年度の利用

	平成29年度計画・目標	平成29年度実績	平成28年度実績
年間利用延べ児童数	264名	353名	269名
月平均児童数	22名	29.4名	22.4名
新規登録児童数	50名	41名	35名
登録児童数	326名	316名	332名

(3) その他の事業 (なでしこプラン)

事業名 保護観察対象等が行う社会貢献活動の受け入れ

保護観察所と地区保護司会と連携し、保護観察対象者の社会貢献活動の場を当学園が提供し、継続的に受け入れ、支援を行った。

	平成29年度計画・目標	平成29年度実績	平成28年度実績
年間受け入れ回数	2回	3回	(2回)
年間受け入れ延べ人数	16名	14名	(15名)

(※平成29年度から、「なでしこプラン」として実施)

10 静岡市心身障害児福祉センターいこいの家（社会福祉事業）

基本理念

児童福祉法に基づく児童発達支援センターとして、発達のおくれが心配な乳幼児の子育て支援・家庭支援の充実をめざし、こどもたちの健やかな育ちと安心安全な生活の達成に努める。

平成 29 年度目標及び結果

目標

障がい幼児の通園事業を核として発達のおくれが心配な就園前幼児の親子教室・療育相談や、保育所・幼稚園に就園している幼児の保育所等訪問支援、障がい児の相談支援等の事業の一層の充実を図る。

結果 核となる通園事業は、平成 28 年度に就学児 14 名、こども園・幼稚園・他県転出 7 名と 21 名が卒園し、同数の新入園児を迎えた。そのうち 13 名は小規模の児童発達支援サービスを利用していた為、集団への移行はスムーズで保護者への対応も事業所と連携をとることで理解が深まった。障がい別人数は自閉傾向児が 23 名と多く、重症心身障がい児は減り、臥位で過ごす児は 3 名となった。反面、歩行は可能で酸素・経鼻経管胃ろうなど、医療的ケアの必要な児が増えている。知的な遅れのない自閉度の強い児の対応も増え中途退園児も出てしまった。医療的ケア児の対応は担任が主治医から研修を受け、看護師の見守りのなか保育士が医療的ケアを実践できるようになった。自閉傾向児の対応も、きらり主催の研修に参加し具体的な対応を学べた。

インフルエンザ・RS ウィルス・アデノウィルスなど流行性の疾患が出ると、メール配信にて保護者に注意を促していたが、誰が感染源か調べ SNS 上で責めるような保護者がおり、職員の知り得ないところで誤った情報が流れる事案が発生した。SNS を含めとする情報管理が今後の課題となった。

親子教室は歩行可能なひまわりグループが増加傾向にあり、未歩行のたんぽぽグループは火・水曜日から火曜日のみとした。金曜日は 1・6 健診でチェックを受けた低年齢児を対象とし、希望児がかなり増えた。地域に開かれた施設として、実習生・研修生・ボランティア等例年以上に受け入れ、その中から就職希望者の学生が多く出た。

④（1）障害児通所支援事業（二種事業）

ア 児童発達支援通所支援

就学前の心身障害児に対して集団参加を通して、生活と遊びを充実させ、健やかな成長、発達をしていくように支援し、併せて就園・就学に向けての基礎作りをした。

	H29 目標	H29 実績	H28 実績
・入園児数（定員）		50 名	(50 名)
・年間新入所児童数		21 名	(25 名)
・年間退所児童数		20 名	(21 名)
・年間延在所（通園）児童数		9,591 名	(9,585 名)
・一日平均在所（通園）児童数	45 名	40.0 名	(40.4 名)

疾病別人員 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

病 名	年間取扱実人員（名）	百分比（%）
脳 性 麻 痺	5	10.0
自閉症(自閉傾向を含む)	23	46.0
精神遅滞(発達遅滞を含む)	6	12.0
染色体異常(ダウン症他)	5	10.0
その他	11	22.0
計	50	100.0

月別在所児童数（年間通所日数 240 日）

年 月	初日在籍者数	延 人 数
29 年 4 月	50	715
5 月	50	859
6 月	50	959
7 月	50	849
8 月	50	781
9 月	50	816
10 月	50	862
11 月	50	791
12 月	50	750
30 年 1 月	50	691
2 月	50	792
3 月	50	726
合 計	600	9,591
月平均	50	799.3
一日平均		40.0

イ 保育所等訪問支援

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
訪問相談	12 件	74 件	68 件
来所相談	／件	69 件	79 件
電話相談	／件	317 件	373 件

⑤ (2) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業(二種事業)

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
障害児支援利用計画	180 件	82 件	95 件
特定相談計画	／件	0 件	0 件
モニタリング	／件	67 件	72 件
一般相談	／件	199 件	190 件
電話相談	／件	1,262 件	1,090 件
訪問支援	／件	187 件	165 件
その他	／件	179 件	171 件

(3) その他 地域療育支援事業

ア 親子教室 年間 252 回 (月平均 21 回) 登録者数 126 名 (111 名)
参加児延数 目標 1,600 名 実績 1,639 名 (1,473 名)

イ 療育相談の実施 (随時) 目標 60 名 71 名 (48 名)
一般相談 (電話及び来所) 377 名 (334 名)

ウ 地域交流等

地域に開かれた通園施設として、地元をはじめ広く市民やボランティア、学生、主婦の方々との交流を実施した。

- ・ いこいの家通信発行 12 回 (12 回) 380 部 (371 部)
- ・ 夏祭り参加者 562 名 (461 名)
- ・ 城東保健福祉エリア地域交流まつり参加者 417 名 (352 名)
- ・ 実習生受入 31 名 (25 名) 延 401 名 (370 名)
- ・ 体験研修受入 94 名 (84 名) 延 143 名 (137 名)
- ・ ボランティア受入 個人 34 名 (21 名) 団体 83 名 (74 名) 延 569 名 (506 名)

11 小 鹿 苑（社会福祉事業）

基本理念

私たちは、ご利用者一人ひとりの声に耳を傾け、真に、ご利用者の立場に立った支援を実践します。

平成 29 年度目標及び結果

目標 1 ご利用者自らが望む生活を施設や地域の中で実現する。

- ・ご利用者の希望をケアプランの中に取り入れ実行する
- ・高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるように支援する

結果

- ・ご利用者の一番の希望である「外出支援」について個別計画を策定したが、職員数を充足できなかったため、計画に沿った支援を行えなかった
- ・高齢者が安心して生活できるよう、事業間で連携を取り継続的な在宅支援を実施した

目標 2 自らが育つ意識を持ち続けることができる職員を育成する。

- ・介護職員が外部研修に参加する機会を年 1 回以上確保する
- ・苑内研修の内容の充実を図り、参加率の向上に努める

結果

- ・介護職員の研修計画を策定したが、職員数を充足できなかったため外部の個別研修に参加させることができなかった
- ・苑内研修においては、法人内の人的資源を活用し、充実した研修を行い参加率も向上した

目標 3 地域とのつながりを軸に社会貢献事業を構築する。

- ・小鹿苑内に地域の方が集うためのサロンを開設する
- ・小鹿苑の周知に努める

結果

9 月から「小鹿苑カフェ」を月 1 回開催している。地域の住民、民生委員など毎回 20 名程度の参加者がある。今後も小鹿苑の周知に努め、地域に開かれた施設づくりを目指して活動を行う

目標 4 稼働率の向上に努める。

- ・全ての職員が施設の経営状況を理解できるよう周知徹底する
- ・事業計画の目標値の達成に向けて職員一人ひとりが努力する

結果

各事業の経営状況について、月次の運営会議において事業間で相互に協力できるもの等を検討し事業目標達成に向けて努力したが、改善傾向にはあるものの全体的な稼働率の向上には苦慮した。

(1) 特別養護老人ホーム運営事業（一種事業） 80 名定員（80 名）

経営の健全化のため空床率の削減に努め、1 日平均在所者数は前年より約 1 名増加したが、年間退所者が昨年に続き 30 名を超える状況にあり稼働率の向上に苦慮した。要介護認定の更新を積極的に行ったため平均介護度は 0.2 増加した。

中庭を活用し、暖かな季節には青空のもとランチを楽しみ、ウインターシーズンには昨年に引き続き今年もイルミネーションを楽しむことができた。

ポジショニング（褥そう等の予防のための姿勢矯正）を継続して実施し、講師の指導のもと介護度の高い方の QOL の向上に取り組んだ。

新規の入所申込が 51 件あり、入所希望者は平成 29 年度末現在で 54 名（88 名）である。

・年間新入所者数	33 名（30 名）
・年間退所者数	31 名（31 名）
・一日平均在所者数	77.2 名（76.3 名）
・入所者平均年齢	85.8 歳（86.1 歳）
・平均介護度	3.7（3.5）

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
一日平均利用人数	79 名	77.2 名	76.3 名

疾病別人員（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日現在）

病 名	年間実人員（名）	構成比（％）
脳卒中等	24	21.6
認知症等	62	55.9
リウマチ、脊椎症等	6	5.4
その他	19	17.1
計	111	100.0

(2) 老人短期入所事業（二種事業） 定員 20 名（20 名）

施設入所等により 33 名利用者が減少し、新規利用者は 23 名であった。

例年どおり、週末・連休期間の希望者は多数であった。職員数の確保ができなかったため、1 日の利用者数を制限せざるを得なかった。またインフルエンザにより受け入れの人数を制限した期間があり稼働率が伸びなかった。

一人年間利用日数は、平均 108 日（64.6 日）であった。

・年間延べ利用者数	4,119 名（5,313 名）
・月平均利用者数	343.3 名（442.8 名）
・一日平均利用者数	11.3 名（14.6 名）
・利用者平均年齢	82.3 歳（84.9 歳）
・平均介護度	要支援 1.0 要介護 2.5（2.8）

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
一日平均利用人数	17 名	11.3 名	14.6 名

(3) 老人デイサービスセンター（通所介護事業）（二種事業）定員一日 35 名（35 名）

通常規模型（月次 301 名以上 750 名以下）でサービスを行った。

施設入所等により 23 名の利用者が減少したが、新規利用者は 35 名と昨年より 16 名増加した。駿河区はデイサービスの競合施設が多く、利用者の新規受入を伸ばすことに苦慮したが、1 日平均利用者は昨年より 1.6 名増加した。

- ・年間延べ利用者数 6,012 名 (5,544 名)
- ・月平均利用者数 501.0 名 (462.0 名)
- ・一日平均利用者数 19.6 名 (18.0 名)
- ・年間実施日数 307 日 (308 日)
- ・利用者平均年齢 77.0 歳 (86.9 歳)
- ・平均介護度 要支援 1.4 要介護 1.8 (要支援 1.6、要介護 2.1)

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
一日平均利用人数	20 名	19.6 名	18.0 名

(4) 老人居宅介護等事業（訪問介護事業）（二種事業）

11 名 (13 名) のホームヘルパーが稼働した。施設入所等により 27 名の利用者が減少し、新規利用者は 28 名であった。

ヘルパーの人材確保が困難であり、需要に対応した新規利用者の受入に苦慮したが、職員 1 人当たりの稼働件数の増加に努め 1 日平均利用者は 1.4 人増加した。

- ・年間延べ利用者数 5,479 名 (5,051 名)
- ・月平均利用者数 456.6 名 (420.9 名)
- ・一日平均利用者数 17.7 名 (16.3 名)
- ・年間活動日数 310 日 (310 日)
- ・利用者平均年齢 81.2 歳 (81.7 歳)
- ・平均介護度 要支援 1.6 要介護 1.6 (1.7)

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
一日平均利用人数	20 名	17.7 名	16.3 名

⑤ (5) 地域包括支援センター運営事業（公益事業）

静岡市からの受託事業であり、主に地域支援事業と指定介護予防事業を行った。西豊田、東豊田、東源台小学校区を担当し、高齢者の方からの総合相談、介護保険要支援認定者の予防プラン作成を行い、関係機関や民生委員との連携により問題解決に努めた。

支援困難ケースについて、その取り組みの検討や、地域課題の抽出を目的

とした地域ケア会議を実施した。

- ・年間延べ相談者数 2,201 名 (1,756 名)
- ・月平均相談者数 183.4 名 (146.3 名)
- ・一日平均相談者数 7.1 名 (5.7 名)
- ・介護予防支援 (直営・委託) 4,189 件 (4,176 件)
- ・年間活動日数 308 日 (308 日)

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
月平均数	345 件	349 件	348 件

(6) 居宅介護支援事業 (公益事業)

4 名 (4 名) のケアマネジャーが稼働し、ケアプランを作成した。

前年度より継続して地域包括支援センターから予防ケアプランの受託作成を行った。要介護認定調査は、年間 152 件 (163 件) であった。

- ・年間ケアプラン給付管理者延べ数 1,520 件 (1,410 件)
- ・月平均数 126.7 件 (117.5 件)
- ・ケアプラン新規作成者 74 名 (68 名)
- ・平均介護度 要支援 1.4 要介護 2.4 (2.3)

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
一日平均利用人数	125 名	126.7 名	117.5 名

月別在所（利用）者数

（名）

区分	特 養		短 期		デイサービス		ホームヘルパー		地域包括支援センター	
年 月	人数	延人数	人数	延人数	人数	延人数	人数	延人数	人数	延人数
29年4月	79	2,336	39	379	54	473	61	423	96	184
5月	80	2,371	47	431	57	554	62	482	105	210
6月	80	2,301	39	389	60	521	62	484	125	202
7月	83	2,430	43	422	62	538	66	468	97	168
8月	81	2,405	43	434	55	505	63	472	94	199
9月	80	2,347	39	328	56	488	60	439	90	195
10月	80	2,404	41	381	58	498	60	436	91	162
11月	79	2,271	40	342	60	518	60	441	86	170
12月	84	2,437	36	326	57	477	62	442	75	165
30年1月	80	2,390	31	246	56	453	62	452	97	191
2月	81	2,099	26	152	58	458	61	440	98	178
3月	80	2,398	34	289	60	529	61	500	98	177
合計	967	28,189	458	4,119	693	6,012	740	5,479	1,152	2,201
月平均	80.6	2,349.1	38.2	343.3	57.8	501.0	61.7	456.6	96.0	183.4
一日平均	77.2		11.3		19.6		17.7		7.1	

12 小鹿なでしこ苑（社会福祉事業）

基本理念

あなたがあなたらしく 私が私らしく

平成 29 年度目標及び結果

目標 1 個人に適したケアを徹底し、その人らしい生活の実現に努めます。

結果 ケアプランや 24 時間シート等で、個別処遇の充実に努めました。

目標 2 自己啓発に努め、専門職として力量を高めます。

結果 外部研修や施設内研修の充実に図りました。

研究活動をしたり学会で発表会をしたり、資質の向上に努めました。

目標 3 ホウレンソウの徹底により情報を共有化し、チームワークを強化します。

結果 各委員会、イントラネット・ブログ等を活用し、情報を共有化しました。

目標 4 より一層のコスト削減に努めます。

結果 省エネ運動、室内灯の LED 化、節水コマ等の導入等により、消耗品や光熱水費の削減に努めました。

（１）特別養護老人ホーム運営事業（一種事業）

定員 96 名 （96 名）

研修体制の強化、介護福祉士資格取得支援、業務マニュアルの見直し等を行い、入居者の処遇改善に努めました。

・年間新入所者数	27 名	(20 名)
・年間退所者数	27 名	(19 名)
・一日平均在所者数	実績 95.3 名	(95.6 名)
・入所者平均年齢	83.9 歳	(84.6 歳)
・平均介護度	4.0	(3.8)

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
一日平均利用人数	94 名	95.3 名	95.6 名

㊦ (2) 短期入所事業（二種事業）

定員 13 名

昨今の少子化、労働力不足により介護職員の採用難が続き、今後も定員 13 名を処遇する職員の確保が困難なため、稼働率を下げ対応しました。

・年間延べ利用者数	744 名	(3,319 名)
・月平均利用者数	62.0 名	(276.6 名)
・一日平均利用者数	実績 2.0 名	(9.1 名)
・利用者平均年齢	81.7 歳	(86.4 歳)
・平均介護度	2.7	(3.3)

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
一日平均利用人数	4 名	2.0 名	9.1 名

月別在所（利用）者数 (名)

区分 年 月	特 養		短 期	
	人数※	在所者延人数	人数	利用者延人数
29 年 4 月	94	2,877	5	87
5 月	96	2,955	3	58
6 月	96	2,872	3	60
7 月	96	2,956	3	60
8 月	95	2,960	3	52
9 月	93	2,845	3	51
10 月	96	2,961	3	55
11 月	96	2,860	3	48
12 月	93	2,920	3	57
30 年 1 月	94	2,927	3	73
2 月	96	2,676	3	69
3 月	96	2,968	3	74
合計	1,141	34,777	38	744
月平均	95.1	2,898.1	3.2	62.0
一日平均		95.3		2.0

※月末入所者数

13 静岡市桜の園（社会福祉事業）

基本理念

「あなたらしさを応援します。」

・人権を尊重し、日々有効なサービスを展開します。そして常に生活の豊かさを求めます。

平成 29 年度目標及び結果

目標 1 「安心・安全な福祉の増進」

- ・日々の健康管理を手厚く行い利用者の疾病予防に努める
- ・施設環境を改善し過ごしやすい生活の場を利用者に提供する
- ・利用者に寄り添い、考えを傾聴できる人材を育成するために、職員に研修の機会を多く与える
- ・利用者アンケートを実施し、利用者の意向を反映し、満足度を向上させる

目標 2 介護支援システムを導入することにより、生活支援業務の効率化、マニュアル化と各部署、職種間の連携を強化する。また、将来を担う職員の育成を図り、教育体制の構築を図る。

目標 3 事業継続マネジメントの浸透を図るとともに、地域との協力体制を強化する。

結果 1

- ・日常生活を通じ日々の健康状態を把握し、感染・疾病予防に努め今年度はインフルエンザ等の感染も見られることなく過ごすことができた。
- ・利用者の意向にできるだけ沿えるように居室替えを行った。防犯カメラを設置し、安全で安心できる環境を整えた。
- ・研修に関して、前年度と比較して 25 件多い 65 件の研修・会議等に参加した。研修計画を作成するところまで到らなかったが、適材適所の人材を研修に派遣させ、視野を広げる機会となった。
- ・29 年度はより多くの意見を取り入れるため利用者のご家族にも協力頂き利用者アンケートを実施した。前年度に比べ「職員の対応」「施設の雰囲気」について満足度がプラスとなった反面、「権利に関すること」「提供されるサービスや活動等」はマイナスとなった。マイナスとなった項目については職員会議・研修への参加や、サービス内容についての見直し（具体的には再度利用者に聞き取りを行い希望を取り入れる等）を行い安心して生活ができるように支援をしていく。

結果 2 介護支援システムを 3 月に導入した。今後業務効率化を目指し部署、職種間連携、強化を図っていく。職員の育成、教育体制の構築をするまでには至らなかった。

結果 3 地域の夏、秋のイベントに利用者も参加し交流を図ったほか、内牧地区および安倍口学区の防災訓練に参加し、車いすの操作方法について説明する等行った。

第三者評価を受審し、取り組んだことを生かし目標達成できなかった項目については今後も施設をあげて取り組んでいく。

障害者総合支援法に基づき、障害者が地域で安心して暮らせる社会の実現を目指し、利用者本位のサービスの提供を基本として利用者との対等な関係を構築する。

サービスの質の向上を図り、利用者の選択に応える。

障害者の個人としての尊厳を重視した福祉サービスの提供を目指す。

⑩ (1) 障害者支援施設事業（一種事業）（定員 80 名）(80 名)

ア 施設入所支援（定員 50 名）、施設入所をともなう生活介護（定員 50 名）

福祉、医療、リハビリ、栄養等多職種が連携し、身体状況、健康状態の把握と対応を怠らず、標準的なサービスの見直しを行い、本人や家族の意向を汲み取りながら支援できるように心がけた。

また、作業療法士による集団・個別リハビリを実施し、身体機能の維持に努めた。

- ・年間入所者数 2 名 (6 名)
- ・年間退所者数 5 名 (3 名)
- ・年間延べ在所者数 施設入所支援 16,909 名 (17,317 名)
生活介護 12,114 名 (12,440 名)

一日平均利用人数	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
施設入所支援	49 名	46.4 名	47.5 名
生活介護	49 名	46.6 名	47.7 名

疾病別人員 (平成 29 年 4 月 1 日 ～平成 30 年 3 月 31 日)

病 名	年間実人員 (名)	構成比 (%)
脳血管障害	7	13
脳性麻痺	16	30
脳外傷（頭部外傷）	7	13
脊髄損傷	6	10
下肢機能障害（上記以外）	7	13
特定疾病（難病等）	3	6
その他	8	15
計	54	100

月別在所（利用）者数 (名)

区 分		入所支援		生活介護	
年 月		人数	延べ人数	人数	延べ人数
29 年	4 月	49	1,432	49	963
	5 月	49	1,419	49	1,058
	6 月	48	1,390	48	1,027
	7 月	47	1,417	47	970
	8 月	47	1,421	47	1,060
	9 月	49	1,412	49	993
	10 月	49	1,471	49	1,050
	11 月	49	1,420	49	1,046
	12 月	47	1,438	47	981
	30 年 1 月	47	1,402	47	1,043
	2 月	47	1,276	47	916
	3 月	46	1,411	46	1,007
合 計		583	16,909	583	12,114
月平均		48.5	1,443.1	48.5	1,036.7
一日平均			46.4		46.6

(入所支援日数 365 日・入所生活介護日数 260 日)

イ 生活介護（通所） 定員 30 名（30 名）

生活介護（通所）では、安全かつ安心して過ごせる場であることを前提に、常時介護を必要とする方に身体機能・生活能力の維持、向上のための援助及び創作的活動の機会の提供を行った。

- ・実利用人数 50 名 (54 名)
- ・年間延べ利用者数 4,730 名 (4,712 名)

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
一日平均利用人数	21 名	19.5 名	19.6 名

利用者数調 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

定 員	年 間 新利用者数	年 間 退所者数	年 間 延べ利用者数	一日平均 利用者数
30 (30)	3 (6)	6 (8)	4,729 (4,712)	19.4 (19.6)

月別利用者数 (名)

年 月	初日在籍者数	延べ人数
29 年 4 月	45	389
5 月	46	393
6 月	45	438
7 月	46	421
8 月	47	408
9 月	46	402
10 月	46	395
11 月	45	379
12 月	45	376
30 年 1 月	45	355
2 月	44	368
3 月	43	405
合 計	543	4,729
月平均	45.3	394
一日平均		19.5

(年間通所日数 242 日)

⑩ (2) 日中一時支援事業 (公益事業) [生活介護 (通所) 空床利用]

日中において一時的な見守りその他の支援を必要とする障害者に対して送迎・入浴・食事のサービスを提供した。

- ・実利用人数 5 名 (11 名)
- ・年間延べ利用者数 28 名 (348 名)

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
一日平均利用人数	空席利用	0.4 名	1.4 名

⑩ (3) 障害福祉サービス事業 (短期入所) (二種事業) 定員 5 名 (5 名)

前年度に引き続き、年間を通じて緊急の要請に対応し受け入れを行った。家族の急な疾病等など地域で暮らす方々のニーズに対応した。担当者会議へもできる限り積極的に出席し、その方の生活像を把握し、他機関との情報共有にも努めた。

- ・実利用人数 39 名 (39 名)
- ・年間延べ利用者数 824 名 (797 名)

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
一日平均利用人数	3 名	2.3 名	2.2 名

月別在所（利用）者数 （年間通所日数 244 日） （名）

区 分	日中一時		短期入所	
年 月	人数	人数	人数	延べ人数
29 年 4 月	5	16	16	63
5 月	3	15	14	61
6 月	3	13	16	56
7 月	3	10	16	62
8 月	3	12	18	99
9 月	2	10	18	65
10 月	2	8	19	70
11 月	2	7	18	68
12 月	2	6	18	84
30 年 1 月	1	4	15	64
2 月	1	4	14	60
3 月	1	3	17	72
合 計	28	108	200	824
月平均	2.3	9	16.7	68.7
一日平均		0.4		2.3

④（４）静岡市桜の園城北館 障害福祉サービス事業（生活介護）（二種事業）

定員 20 名（20 名）

城北館は、平成 28 年度より静岡市桜の園の従たる事業所ではなく、単独の生活介護事業所となった。前年度に引き続き、外出の機会を増やし、徒歩で行ける近隣のみならず、目的地を設定し、数人で外出できる機会も提供した。平成 29 年度は、利用者と成人を祝う対象となる利用者がいなかったが、地区社協の方と音楽会を企画・開催した。

- ・実利用人数 19 名 （19 名）
- ・年間延べ利用者数 3,160 名（2,887 名）

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
一日平均利用人数	14 名	13.0 名	11.9 名

利用者数調 （平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

定 員	年 間 新利用者数	年 間 退所者数	年 間 延べ利用者数	一日平均 利用者数
20 (20)	3 (0)	3 (2)	3,160 (2,887)	13.0 (11.9)

月別利用者数

(名)

年 月	初日在籍者数	延べ人数
29 年 4 月	19	273
5 月	22	279
6 月	21	308
7 月	20	281
8 月	19	284
9 月	19	258
10 月	19	265
11 月	19	244
12 月	19	250
30 年 1 月	19	224
2 月	19	238
3 月	19	256
合 計	234	3, 160
月平均	19. 5	263. 6
一日平均		13. 0

(年間通所日数 244 日)

14 静岡市心身障害者ケアセンター（社会福祉事業）

基本理念

一人ひとりが地域の一員として自立した日常生活を営むことができるよう、利用者が主役となり地域福祉に貢献できる施設を目指します。

平成 29 年度目標及び結果

目標 1 利用者の意向にできる限り沿えることが出来るように努める。

結果 (1) 希望する自立訓練の日数を利用できるよう努めた。

(2) 訓練、送迎、入浴の見直しを随時行い、満足いただける環境づくりに努めた。

利用者アンケートのサービス満足度 目標：75%以上 結果：74% (76%)

目標 2 多様化する障害や個人の状況に即した適切な対応ができるように努める。

結果 (1) 利用者の障害の種別等に即した適切な対応ができるよう、職員の研修への積極的な参加を進めた。

職員研修参加回数 目標：25 回（延べ参加者数 30 人）

結果：31 回（延べ参加者数 41 人）

※平成 28 年度：23 回（延べ参加者数 25 人）

(2) 個人の状況に即した対応や支援の幅を広げるため、個別の担当者会議等に積極的に参加し情報収集するとともに、各機関との関係性や連絡体制の強化に努めた。

(3) 個人の適性に即した自立訓練のプログラムの見直しに努めた。

目標 3 自立訓練新規利用者の確保に努める。

結果 (1) 対象となる地域の相談支援事業所と連携し、自立訓練終了後、個人にあった障害福祉サービス事業所等を提案できるように努めた。

(2) 空席利用にて日中一時支援を利用されている方について、個別面談、相談等を行いながら他障害福祉サービス事業所の紹介や見学の同伴等を必要に応じて行い、新規自立訓練利用者の受入れ環境を整備した。

新規利用者 : 自立訓練（機能訓練）8 名 自立訓練（生活訓練）9 名

※平成 28 年度：自立訓練（機能訓練）5 名 自立訓練（生活訓練）7 名

目標 4 地域とのつながりに努める。

結果 ・学校等の見学を積極的に受け入れ、ケアセンターの周知につながる機会を多く持つよう努めた。

※地域交流祭実施 1 回

済生会フェア参加 1 回

特別支援学校 連絡協議会 参加 1 回

見学・体験対応 7 回 計 87 名

職員研修受け入れ 3 回 計 3 名

静岡市心身障害者ケアセンターは、静岡市の指定管理者として自立訓練事業（機能訓練・生活訓練）を実施しており、自立訓練のサービス支給期間が終了した後、継続利用を希望される方については、空席利用として日中一時支援事業を実施した。

平成 27 年度より新たな指定管理を受け、引き続き利用者の要望にできる限り応えることができるように、更なるサービスの向上と利用者確保に努めた。

また、併設の障害者生活支援センター城東は、静岡市障害者等相談支援事業として市より委託を受け、委託支援事業及び特定相談・障害児相談支援事業を実施した。

疾病別人員 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)		
病 名	年間実人員 (名)	構 成 比 (%)
(身体障害)		
脳性麻痺	35	38%
脳血管障害	13	14%
脳外傷	9	10%
脊椎損傷	7	8%
その他	29	30%
計	93	100%
(知的障害)		
知的障害	32	56%
脳性麻痺	6	11%
ダウン症	7	12%
自閉症	9	16%
その他	3	5%
計	57	100%

⑤ (1) 障害福祉サービス事業

ア 自立訓練（機能訓練）（二種事業）（定員 20 名）

機能訓練の利用者は、身体機能の維持・向上、生活上の必要な訓練を、静岡医療福祉センターから訓練スタッフの派遣を受けて実施した。

・登録者数	16 名 (17 名)
・利用実績延数	1, 141 名 (1, 080 名)
・一日平均利用者数	4. 7 名 (4. 5 名)

月別利用者数（年間開所日数 241 日）

区 分		機能訓練		区 分		機能訓練	
年 月		実人員(名)	延人数(名)	年 月		実人員(名)	延人数(名)
29 年	4 月	15	99	30 年	1 月	16	82
	5 月	18	95		2 月	16	99
	6 月	17	109		3 月	16	108
	7 月	16	88	合 計		194	1, 141
	8 月	16	89	月平均		16. 1	95
	9 月	15	83	一日平均			4. 7 (4. 5)
	10 月	16	85				
	11 月	17	99				
	12 月	16	105				

イ 自立訓練（生活訓練）（二種事業）（定員 10 名）

生活訓練の利用者は、精神障害の合併により就労事業所等への通所が困難になった方や、障害特性による配慮の必要な方が利用された。

・登録者数	28 名	(19 名)
・利用実績延数	1,918 名	(1,481 名)
・一日平均利用者数	8 名	(6.2 名)

月別利用者数（年間開所日数 241 日）

区 分		生活訓練		区 分		生活訓練	
年 月		実人員(名)	延人数(名)	年 月		実人員(名)	延人数(名)
29 年	4 月	21	126	30 年	1 月	29	144
	5 月	24	153		2 月	29	161
	6 月	26	169		3 月	28	152
	7 月	28	167	合 計		332	1,918
	8 月	30	181				
	9 月	30	159				
	10 月	29	179	月 平均		27.6	159
	11 月	29	170				
	12 月	29	157				
				一日平均			8 (6.2)

⑤（２）日中一時支援事業（公益事業）（空席利用）

27 年度から自立訓練の新規利用の確保・拡大に努めてきたため、空所利用である日中一時支援の利用者は減少した。

・登録者数	身体利用	36 名	(47 名)	知的利用	24 名	(27 名)
・利用実績延数	身体利用	1,734 名	(2,274 名)	知的利用	1,071 名	(1,141 名)
				合 計	2,805 名	(3,415 名)
・一日平均利用者数	身体利用	7.2 名	(9.5 名)	知的利用	4.4 名	(4.8 名)
				合 計	11.6 名	(14.3 名)

月別利用者数（年間開所日数 241 日）

区 分		日中一時支援		区 分		日中一時支援	
年 月		実人員(名)	延人数(名)	年 月		実人員(名)	延人数(名)
29 年	4 月	71	256	30 年	1 月	61	186
	5 月	71	242		2 月	61	208
	6 月	69	276		3 月	60	225
	7 月	69	253	合 計		781	2,805
	8 月	68	260				
	9 月	66	232				
	10 月	63	237	月 平均		65	233.7
	11 月	61	220				
	12 月	61	210				
				一日平均			11.6 (14.3)

④ (3) 特定相談支援事業・障害児相談支援事業（二種事業）

ア 障害者等相談支援事業

障害者生活支援センター城東は、身体障害を中心に在宅の障害者・家族の相談に関わり、必要な機関との連絡・調整を行い、支援を行った。

(ア) 相談件数 2,155 件（内、ピアカウンセリング 230 件） (2,900 件)

相談人員 614 名（内、ピアカウンセリング 107 名） (919 名)

※今年度より、件数・人員のカウント方法を変更した。

(イ) その他の活動 身体障害者生活支援事業 87 回 (91 回)

・社会資源を活用するための支援（外出支援等） 42 回

・社会生活力を高めるための支援（パソコン教室） 45 回

(ウ) 参加会議 主催した個別支援会議 13 回 (13 回)

参加した個別支援会議 22 回 (24 回)

連絡調整会議等 25 回 (22 回)

イ 障害福祉サービス等の利用計画の作成（特定相談・障害児相談支援）

障害者生活支援センター城東は、静岡市の「指定相談支援事業所」として、障害福祉サービスの利用（身体・知的・精神）に関するサービス利用計画書を作成した。

(ア) 相談件数 2,143 件（内児童 22 件） (2,349 件 内児童 16 件)

相談人員 172 名（内児童 3 名） (173 名 内児童 2 名)

(イ) サービス利用等計画作成

実人員 165 名 (192 名) ・ 延件数 2,143 件 (2,349 件)

15 ワーク春日（社会福祉事業）

基本理念

明るく楽しく働くあなたを応援します。

（１）就労継続支援事業Ｂ型（二種事業）（定員 30 名）

平成 29 年度目標及び結果（就労継続Ｂ型事業所）

目標 1 就労支援事業の受注の確保と工賃の向上

- ・受注の確保や拡大に努め、利用者が充実した作業を毎日行えるよう支援し、工賃の向上に努める。

結果 平成 29 年度は、市内にある模型会社の下請けから、毎日の作業を提供していただき、従来の袋詰め作業などに加え、多くの作業を利用者が行うことができた。そのため、作業内容も豊富になった。その反面、職員が関わらなければならない工程も多く課題も多い。また、工賃については、前年度を若干上回ることができた。

目標 2 利用者の送迎を充実させる。

- ・マイクロバスに代わり小型の車両を導入することにより、きめ細かい送迎サービスを実施する。

結果 昨年 11 月に新車両が納車され、マイクロバスに代わる送迎を実施した。セノバ裏や静岡駅など、大型車の入りにくい場所での送迎が可能となり、また所有する全車両が普通免許で運転できるようになり、職員全員で分担し送迎に当たることができ業務の効率化が図られた。

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
一日平均利用人数	27 名	25.5 名	27.6 名
平均工賃月額	—	14,221 円	14,174 円

●月別利用者数 (名)

	利用登録 者数	新規利 用者数	退所 者数	開所日数	利用延べ 人数	一日平均 利用者数
29 年 4 月	41	0	1	20	542	27.1
5 月	40	0	1	20	515	25.8
6 月	39	0	1	22	550	25.0
7 月	39	1	0	20	522	26.1
8 月	40	1	0	19	508	26.7
9 月	40	0	0	20	517	25.9
10 月	40	0	1	20	509	25.5
11 月	39	0	0	20	507	25.4
12 月	39	0	0	20	505	25.3
30 年 1 月	40	1	1	19	454	23.9
2 月	39	0	0	19	472	24.8
3 月	39	0	2	21	514	24.5
合計	---	3	7	240	6,115	25.5

●障害別利用者数 (平成 29 年 3 月現在) (名)

		男	女	合計	(備考)
身体障害	視覚	1	4	5	知的との重複 1 名
	聴覚	2	－	2	視覚との重複 1 名
	肢体不自由	12	6	18	知的との重複 2 名 精神との重複 1 名
	内部	2	－	2	
知的障害		3	3	6	身体との重複 1 名 精神との重複 1 名
精神障害		3	3	6	
合 計		23	16	39	

(2) 福祉ホーム事業 (二種事業) (定員 6 名)

新規利用者はなく、3 名の利用にとどまった。個別の課題には丁寧に対応した。また、安心かつ快適な居住の場を提供することができた。地域生活に向けては個別の相談にのっている。

	平成 29 年度計画・目標	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
一日平均利用人数	4 名	3.1 名	3.0 名

16 静岡済生会看護専門学校（公益事業）

基本理念

済生の精神にもとづき、対象となる人間を生命尊厳や個人が尊重されるかけがえのない存在として捉え、それぞれの健康段階にある人に看護が実践できるような専門職業人を目指す。

平成 29 年度目標及び結果

目標

- 1 看護師としての基礎的能力の育成と、済生の理念を基にした看護が実践できる学生を育成する。
- 2 看護師国家試験の全員合格を目指す。
- 3 講義・演習・実習へと学生自身が学びを継続し、深めるよう、講義内容を工夫する。
また、教育目標を達成できるよう臨床と協働する。
- 4 教員の経験に応じた教育研修・臨床研修を行い、教育力の向上及び人材育成を図る。

結果

- ・看護を必要とする人を総合的に理解する能力を養い、看護に必要な知識・技術を習得し、それぞれの健康段階にある人に応じた看護が実践できる基礎的能力を養った。
- ・保健・医療・福祉に貢献できる看護師を育成することを目的に、それぞれの学年目標を掲げ、学校での基礎的教育や臨地実習での技術習得に励んだ結果、対象の学年においては、国家試験全員合格など、ほぼ目標を達成することができた。

本年度においては、次のとおり 118 名（116 名）の看護師養成教育を行った。

教育課程の適正な運用を図り、個々の学生への学習指導を充実・強化して実践した。さらに、臨地実習においては、臨床指導者と教員との連携を図り、学生への指導体制を整えて協働して指導に当たった。学生一人一人の理解度に応じた学習を支援し、その結果、受験生 38 人全員が国家試験に合格することができた。また、昨年度不合格であった 4 人に対しても必要な支援を行い、全員が国家試験に合格した。

看護師としての適性がある学生を確保するため、学校説明会やオープンスクールを開催するとともに、県内のナースセンター主催の看護学校進路説明・相談会への参加や高等学校訪問により、看護学生を目指す学生の募集に努めた。

（１）学年別在籍者数（定員 120 名）

区分	1 年次生	2 年次生	3 年次生	計
平成 2 9 年度実績	40 名	40 名	38 名	118 名
平成 2 8 年度実績	40 名	39 名	37 名	116 名

(2) 入学試験結果状況

(名)

区 分		平成 30 年度	平成 29 年度
受験者	推薦入試	28	31
	社会人入試	18	19
	一般入試	98	92
	計	144	142
合格者	推薦入試	17	16
	社会人入試	3	2
	一般入試	44	64
	計	64	82
入学者	推薦入試	17	16
	社会人入試	3	2
	一般入試	20	22
	計	40	40

(3) 卒業生の状況

(名)

区 分	平成 29 年度実績	平成 28 年度実績
済生会総合病院	36	27
その他県内病院	2	2
県 外 病 院	0	3
進 学	0	1
そ の 他	0	3
計	38	36

(4) 看護師国家試験結果状況

(名・%)

	平成 29 年度実績			平成 28 年度実績		
	受験者数	合格者数	合格者率	受験者数	合格者数	合格者率
静岡済生会看護専門学校	38	38	100.0	36	32	88.9
県内看護専門学校(3年課程)	-	-	97.5	-	-	96.6

平成 28、29 年度合格率は、厚生労働省から入手した新卒者の合格率である。

平成 29 年度の全国(3 年課程)の合格率は 97.6% (厚生労働省) となっている。

17 静岡済生会訪問看護ステーションおしか（公益事業）

基本理念

障害や疾病を持ち、地域で生活している人々に対して、住み慣れた地域で、安心して「その人らしく心豊かな生活」ができるよう、温かく思いやりの心で質の高い看護を提供します。

平成 29 年度目標及び結果

目標 1 利用者の要望に沿い、安全、安心と信頼を得られる質の高い看護を提供する。

結果・部署内研修の年間計画によって年 10 回定期的に研修が行い、平均参加率約 90% 院内外の研修に参加を促して、それぞれが複数回の参加を行った。

- ・苦情報告、インシデント、アクシデント報告の徹底を促し、結果は全体会議で報告し年報に掲載。また、静岡市介護サービス情報公表を行った。
- ・外部講師による接遇・コンプライアンス研修会を行い、全体会議で周知徹底を促した。
- ・事例検討や日々のカンファレンスで利用者の情報や問題の共有を図った。

目標 2 利用者・地域のニーズを知り、保健、医療、介護・福祉サービスとの密接な連携を図る。

結果・診療所の医師や他職種との連絡調整を積極的行なった。

- ・静岡県ステーション協議会による利用者満足度調査実施調査に協力し、全県下と当科の比較評価を行った。
- ・広報活動として毎月のおたより・20 年誌、年報の同時発行を行い訪問看護の活動内容を理解して頂くようにした。
- ・サービス担当者会議（214 件／年）、退院前カンファレンス（67 件／年）へ積極的に参加を行い他機関、他職種との連携を積極的行なった。

目標 3 健全で安定した運営をめざす。

結果・職員の入れ替わりで新規受入の減少、短期間利用者の増加などで、利用者実人数、訪問述べ件数の減少となり、訪問延べ件数 15,733 件は、目標達成率 85%に留まった。しかし、人材確保の困難が続いたことにより人件費支出は少なく、計上収支は黒字決算となった。

- ・医療依存度の高い方、ターミナルケアなど済生会病院相談室、小鹿苑居宅支援事業所との連携をスムーズに行うように努めた。

目標 4 職場環境の充実に図り、人材の確保に努める。

結果・連続休暇、携帯待機明けの有給が取れるよう配慮した。有給消化率（常勤 45% 非常勤 69.7%）

- ・年 1 回及び必要時に個人面接を実施し、職員の就労、生活状況の把握に努めた。

(1) 訪問看護事業実績

平成 29 年度は、介護保険、医療保険を含め訪問延件数は 15,733 件であり、平成 28 年度に比べ 1,223 件（介護保険 609 件減少、医療保険 607 件減少、その他 7 件減少）減少した。また、訪問延件数のうち、5,875 件（6,506 件）は、サテライトみかど台分である。

平成 29 年度目標件数 18,500 件

平成 29 年度実績件数

介護保険延べ件数 13,543 件 (14,152 件)

医療保険 2,139 件 (2,746 件)

その他(実費訪問) 51 件 (58 件)

合 計 15,733 件 (16,956 件)

月平均 1,311 件 (1,413 件) 1 日平均 53.7 件 (57.9 件)

疾病別 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

病 名	人 員 (名)	構成比 (%)
神経系疾患	43	11
呼吸器系疾患	38	9.7
精神障害	27	6.9
脳血管系疾患	57	14.5
骨格系及び結合組織疾患	32	8.2
悪性腫瘍	70	17.9
その他	125	31.8
計	392	100.0

月別訪問者数

年 月	取扱実人員 (名)	延 件 数 (件)
29 年 4 月	259	1,272
5 月	253	1,235
6 月	261	1,384
7 月	266	1,315
8 月	268	1,425
9 月	259	1,276
10 月	266	1,396
11 月	262	1,276
12 月	263	1,323
30 年 1 月	262	1,213
2 月	253	1,199
3 月	259	1,419
計	3,131	15,733
月平均	260.9	1,311.1
一日平均		53.7

(年間訪問日数 293 日)

年齢別性別訪問者数 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日) 単位：名

年齢 性別	～ 59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 ～	合 計
男性	15	7	15	19	24	37	30	24	176
女性	10	4	9	4	20	32	59	78	216

(2) グループホーム等への訪問看護

委託契約したグループホーム 1 施設に週 1 回の訪問をし、入居者の日常的な健康管理及びグループホーム職員からの相談への対応、また、必要に応じ医師との連絡調整及び指示書の発行を受け、医療処置等通常の訪問看護を行った。

